群馬県立大泉高等学校　学校評価一覧表②（令和２年度版）

（様式２）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○本校でなければ学ぶことのできない授業や各科の特色ある教育課程に７５％以上の生徒が満足している。	B	B	B	○生徒調査では授業や教育課程、本校で学ぶことに対する評価は概ね７割以上が満足と評価しているが、各科・各科目においてはばらつきがみられる。「授業の質」との兼ね合いにおいて授業改善を更に促す余地がみられるため、「B」と評価した。	○他校に比べ、特色のある学校と思うが、それ以上に、教職員が一丸となって教育に注力していることを評議員として強く認識している（評議員A)。 ○特色のある学校教育を継続し、生徒の学ぶ意欲を育むカリキュラムを継続してほしい（評議員B)。	○令和４年度の新教育課程の本格実施を目前に控え、「生徒の満足度」の高さに慢心することなく、本校の各科が持つ魅力と育てたい生徒像との関係性を明確にし、「授業の質」を意識した授業改善を進めることが必要である。
		○「大泉高校で学ぶことができてよかった」と感じる生徒の割合は80%以上である。	B	A	B			
		○「交流学習」や「一日体験学習」、「泉農フェア」などの生徒が主体となって地域連携する活動に80%以上の生徒が意義を理解し、半数以上の生徒が活発に参加している。	B	A	A	○新型コロナウィルス感染症の予防対策との関係で、「泉農フェア」など、地域連携を前提とする行事は実施できなかったが、中学生を対象とする「一日体験学習」においては生徒が主体的に行動する様子が見られた。また、「課題研究」「総合的な学習の（「探究」の時間」でも一斉休業に伴う授業数の研究方法・発表方法の制限の中でも、例年並みの生徒の主体的な学習活動が見られたことから「A」と評価した。	○コロナ禍で「泉農フェア」等の、地域と関わり合う活動が自粛されたのは残念であるが、中学校へのオンラインによる体験の配信等、新しい取り組みが進んでいることは評価できる（評議員C)。 ○新年度もコロナ対応との両立で大変だと思うが、行事の精選を通じ、特色ある教育活動を行ってほしい(評議員D)。 ○課題研究発表会を見学し、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の定着を実感した（評議員E)。	○新型コロナウィルス感染症との兼ね合いで、地域連携を行う行事に関し、今年度並みの制限が継続されることを前提とする必要がある。具体的には、動画などのICT分野の活用により、生徒が主体となる教育活動を地域に発信する取り組みを強めていくこと等が考えられる。 ○普通科の「総合的な探究の時間」等でも学習成果を発表する機会を充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力を培う環境を整えることが必要である。
		○「課題研究」等の専門科目や「総合的な学習（探究）の時間」を通して生徒自身がテーマを設定し、その解決を図るための学習活動に生徒の75%以上が積極的に取り組んでいる。	B	A	A			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○選択や習熟度による少人数授業やグループ学習・実習等の学習指導に75%以上の生徒が満足している。	B	B	B	○授業に関する満足度や学習ルールに関する生徒調査は概ね７割以上が高評価を示しているが、授業によっては改善を求める数値が高いこともあり、「B」と評価した。 ○今年度から実用英語検定に関しては全員受検とした。年度当初の一斉休校や感染症対策との兼ね合いにおいて資格取得に関する指導や受検機会が減少し、実績の伸び悩みがあるため、「B」と評価した。	○少人数授業やグループ学習、実習で「誰一人取り残さない」という気持ちで授業に臨んでいることに好感が持てる。引き続き、継続してほしい（評議員D)。 ○新年度もコロナ対応との兼ね合いで、資格取得に関する日程変更が予想されるが、生徒への学習動機付けなど、メンタル面での対応をお願いしたい（評議員D)。 ○実社会では積極性・責任感・発想力・経営意識等が求められることを踏まえた授業改善が必要である（評議員A)。	○一人一台端末の積極的な活用を通じ、グループ学習の質の改善に取り組むほか、少人数授業のメリットを活かした授業改善に取り組む。また、授業規律の確保が授業改善の前提であることについても共通理解を深めたい。 ○資格取得に関し、資格のメリットを提示するだけでなく、取得に向けて「努力すること」の大切さや、学習習慣を身に付ける効能等にも着目させ、啓発的な指導を充実させる必要がある。
		○授業中の生徒指導により80%以上の生徒が学習ルールを守って学習している。	B	B	B			
		○各科で取得できる資格と資格取得に関する指導に70%以上の生徒が満足している。	C	B	B			
		○各科の資格取得率が平均して60%以上である。	B	B	B			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○各教科、科目の基礎的・基本的な内容について理解し、思考力、判断力、表現力などを70%以上の生徒が身に付けている。	B	B	B	○生徒調査では基本的な内容の理解や思考力等の学力の定着に関する評価は概ね高いが、定着の質に関し、改善の余地がみられる。定期考査についても、回を追うごとに得手・不得手が顕在化するため、授業改善を促す観点から「B」と評価した。	○授業に対する満足度と学力の定着度は相関関係にある。確かな学力を育む上でも生徒一人一人の満足度・達成度を高める授業を継続してほしい（評議員B)。 ○成績不振者に対する補充的指導を継続し、手厚い指導を充実させてほしい（評議員C)。	○各教科で身に付けるべき内容について精査するとともに、一人一台端末の活用など、定着させるための授業の在り方について研修する機会を充実させる必要がある。 ○成績不振者には「補充的指導」を実施しているが、学習のつまずきに対し、「寄り添う」指導を継続する。
		○各学期の定期試験の結果、学習成績不振者が10%以下である。	B	B	B			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○生徒の状況や指導に関して情報交換する会議を月に２回以上実施している。	A	A	A	○今年度は学年会や分掌会議等を時間割上でも確保することができた。このため、生徒に関する情報共有や指導方針の立案や修正が円滑に行われ、生徒の学校生活の満足度の数値も高いため、「A」と評価した。 ○部活動などの加入率や活動の参加状況は目標値を達成した。 ○教育相談に対する信頼度を示す生徒調査・保護者調査の数値は７割以上が高評価を示している。	○一人一人の生徒理解の充実は教師と生徒の信頼関係の礎となる。今後もその深化が図られたい（評議員B)。 ○SNSによるいじめなど、先生方の情報共有や保護者との連携は必要不可欠である。今後も早期発見に努めるとともに、適切かつ迅速な対応を継続してほしい(評議員D)。 ○コロナ禍でも、部活動や研究部活動で、先生や生徒が創意工夫をしながら活発に活動している（評議員C)。	○学年会や分掌会議等を定期的に確保することで、生徒への対応が円滑に行えていることを踏まえ、次年度にも情報共有を促す環境整備に取り組む必要がある。 ○部活動や各種の活動に参加することについて、啓発的な指導を継続すべきである。 ○教育相談に対する生徒・保護者の信頼度は概ね良好であることを踏まえ、より組織的な対応となるよう、校内体制の一層の充実を図りたい。
		○職員の組織的・継続的な指導により75%以上の生徒が生き生きと学校生活を送っている。	B	A	A			
		○部活動や農業クラブの研究部活動に参加している生徒が60%以上である。	B	A	A			
		○教育相談の体制が十分であり75%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	B	A	A			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめに関わる問題について、全生徒がいじめの未然防止・早期発見のため真剣に取り組んでいる。	B	B	B	○いじめに関しては「いつでも起こりうる」ことを前提に情報収集に努め、必要に応じ、生徒アンケートから個別面談に移行することで、被害生徒の保護と加害生徒に関する適切な指導について対策を講じるようにしている。いじめ防止に関する啓発分野に関し、改善の余地がみられるため、「B」と評価した。	○いじめ問題では適切な指導を行っている（評議員C)。 ○いじめを許さない文化を根付かせることは簡単ではないが、生徒主体でそうした文化を根付かせるように頑張ってほしい（評議員B)。 ○いじめの認知と対応について説明を聴き、安心した。今後も生徒の細かな変化に注意し、早期解決に向けた取り組みをお願いしたい（評議員E)。	○いじめは「いつでも起こりうる」ことを前提に、早期発見にむけての情報収集や生徒観察について、職員の共通理解を深め､早期解決に向けた体制の整備が必要である。 ○過年度において行われた「いじめ防止フォーラム」の成果を踏まえ、いじめ防止に関する啓発指導の改善に取り組みたい。
		○早期発見に努め、発見率が100%である。	B	B	B			
		○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	B	B	B			
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○１日の遅刻者数が平均して６人以下である。	C	B	C	○不登校傾向を示す生徒や体調管理がおぼつかない生徒、進路が内定した生徒の「気の緩み」などに関する指導を改善する意味から遅刻や欠席に関する評価を「C」とした。 ○保健室利用に関し、不登校傾向を示す生徒や、社会不安に起因する家庭環境が不安定な生徒、精神的不安定を示す生徒へのケアの充実が必要である。 ○頭髪服装検査に関しては、学校生活の節目を意識した指導を行っており、その趣旨が徹底されている。	○基本的生活習慣の定着に向けて家庭との連携、啓発を一層進めていくべきだと思う（評議員B)。 ○遅刻については３年生の数の増加が気になる。進路決定で少し油断する傾向があるのではないか（評議員C)。 ○LGBTに関する対応は今後避けられないと思う。引き続き、熟慮ある対応をお願いしたい（評議員A) ○身だしなみは実社会に出ていく上で必要なことなので引き続き指導をお願いしたい（評議員D)。	○基本的な生活習慣の確立の重要性について、多角的な視点から指導を強めていく必要がある。特に生徒・保護者の関心の高い進路指導分野から「社会性」の獲得といった観点などを踏まえて改善を図りたい。 ○心理的に不安定な生徒に対し、学年団や生徒指導部との情報共有を深め、「寄り添う」指導を充実させるとともに、外部機関との連携を密にする必要がある。 ○頭髪服装指導について、生徒の規範意識の確立という観点から自主的に取り組むことができるよう指導する。
		○１日の欠席者数が平均して６人以下である。	C	B	C			
		○心身の不調により保健室を訪れる生徒が平均して１日に８人以下である。	C	B	C			
		○頭髪服装検査の結果、改善の指導を受ける生徒が10%以下である。	A	A	A			
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○各学年の進路ガイダンスの実施時期や内容に75%以上の生徒が満足している。	C	B	C	○一斉休校や新型コロナウィルス感染症の予防対策の関係で、従来の進路ガイダンスを実施できず、特に１・２年生に関し、進路に対する啓発的指導が十分に実施することができなかった。二者面談の満足度に関し、生徒・保護者調査でも一定の評価がある。	○時宜を捉えた面談の設定や、進路を計画的に考えさせる機会を設けることで、今年度の実績（＝ほぼ前年度並み）を達成できたのだと思う。生徒の進路実現に向けた継続的な支援が引き続き、必要であると思う（評議員E)。 ○キャリア教育の推進と充実をお願いしたい（評議員B)。	○進路ガイダンスに関し、生徒の発達段階を踏まえた時期の設定や、新型コロナウィルス感染症対策を前提にした実施方法の見直しを進める必要がある。 ○生徒が「自己の在り方」「将来の職業」にむけて真剣に向きあうことができるよう、情報提供の改善に努める。
		○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	B	B	B			
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○進路実現に向けて「自己の生き方」や「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。	B	B	B	○例年11月に実施している就業体験学習は新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い、今年度の実施は断念せざるを得なかった。進路実現に対する意識は生徒・保護者調査の両方で高い関心を示しているが、具体的な進路を取り巻く社会情勢や資質・能力に関する指導を就業体験学習が実施できなかったことへの代替措置も含め、取り組みを強めていく必要がある。	○コロナ禍が収束していないので今まで通りの「体験」には制限が出ると思うが、生徒たちの進路選択の後押しを続けてほしい（評議員D)。 ○就業体験の代替としての「職業講話」の計画は大変すばらしいと思うので、今後の改善策として是非進めてほしい（評議員C)。	○就業体験学習の代替行事として「職業人講話」等を実施するなど､新型コロナウィルス感染症対策を前提とした、キャリア教育の計画の見直しを行う。 ○二者面談・三者面談を通じ、家庭の理解と協力の下、望ましい進路選択にむけて生徒が主体的に努力できるよう、指導内容の見直しと情報提供の充実と改善を図る必要がある。
		○１年次に実施する就業体験学習を「将来の進路選択に役立つ」と考える生徒が70%以上である。						
		○生徒の進路希望について80%以上の保護者が理解している。	B	A	A			
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○学校のホームページを月４回以上更新し、生徒・保護者･地域に学校の活動等の情報発信を行う。	A	A	A	○Webページの更新頻度は目標値を大幅に上回ったほか、tsulnosでの動画配信やYouTubeの活用など、ICT分野を駆使した本校の情報発信は評価が高い。 ○一斉休校中の三者面談の実施など、生徒・保護者の目線に立った情報発信を継続したい。	○今の時代、学校からの情報発信や情報開示は必須と考えられる。今後も充実を図られたい（評議員B)。 ○HPの掲載等、見える学校づくりは保護者にとっても安心できる。YouTubeの活用、クラウドファンディングの取り組みなども大変良いと感じられ､期待している(評議員D)。	○ICTの活用による情報発信の改善をさらに進め、本校に対する地域社会の信頼感を高めるとともに、生徒募集の向上につながるように努めたい。 ○生徒・保護者の視点に立った情報発信の在り方について、引き続き改善を図りたい。
		○三者面談の設定やホームページの更新などによる本校からの情報発信に、75%以上の保護者が満足している。	B	B	B			